

政令市初 市議団の奮闘で国の要請を超えた PCR検査体制拡大へ

3月15日に神戸市予算特別委員会がひらかれ、日本共産党神戸市議団を代表して森本真議員が総括質疑をおこないました。

神戸市は、高齢者施設などで働く職員を対象にしたPCR検査の対象をデイサービスなどの通所施設にも広げるとともに、検査方法を複数の検体を同時に調べる「プール検査式(以下プール検査)」を用いると決めました。森本議員は「感

染対策をすすめるためには、無症状陽性者をいかに検査・保護するのが問われている」と指摘し、定期的で頻回なPCR検査や検査範囲の拡大など、検査体制の拡充と、コロナ禍で経営が悪化している医療機関への減収補填を求めました。

森本議員が
総括質疑



質疑項目

1. 新型コロナウイルス感染症対策
 - ①PCR検査体制の拡充について
 - ②医療機関の減収補填について
2. 神戸経済を守るために
3. 市民のくらしを守るために

神戸には市が支援もしているmade in KOBEの全自動PCR検査システムがある。すぐにでも活用すべきだ。

久元市長：今すぐ使えない。今後使える状況になれば

検討する。

森本議員：愛知の医科大では本格稼働している。神戸市でもさらにシステムを改良するような取り組みをすべきだ。

市内事業者の危機深刻 倒産・廃業させない直接支援を

新型コロナウイルスの感染拡大により事業者から大きな悲鳴があがっています。これまでの国県市の支援では十分な支援が行き届いていません。緊急事態宣言や時短営業の延長が続いており、久元市長は「切れ目ない支援をおこなう」

と明言していますが、感染拡大防止協力金はまだ申請者の10分の1の事業者にしか支給されていません。森本議員は「切れ目ないどころかほとんどが困っている。事業者を倒産・廃業させない経済支援をおこなうべきだ」と質しました。

答弁ダイジェスト

森本議員：福岡市は1日7600件、札幌市でも4万2000人に月1回の検査をしている。682件は全く間尺に合わない。

恩田副市長：マンパワー的

にこれ以上の拡充は難しい。民間のプール検査の活用で1か月ごとに検査する。

森本議員：プール検査をすすめても陽性者が出れば一人ひとり検査する必要がある。

定期検査の拡大

※太文字：令和3年度追加実施施設

【入所施設】	
高齢施設	特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホーム、養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院、ケアハウス、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
障害施設	施設入所支援、障害児支援施設、共同生活援助(グループホーム)
【通所施設】 政令市初 国の要請を超えて通所施設についても実施	
高齢施設	通所介護(デイサービス)、通所リハ、地域密着通所
障害施設	生活介護(デイサービス)・短期入所、自立訓練、就労継続支援(B)、就労継続支援(A)・就労移行支援

PCR検査体制の強化



今市民が求めているのは？ 大型開発よりも市民を守るためのコロナ対策を最優先に

久元市長は「コロナ対策に全力で取り組むとともに市民の暮らしを守る」と提言していますが、神戸市は、三宮駅前再整備や市役所の建て替えなどの大型開発に100億円単位の予算を計上し、市民の暮

らしを最優先に考えているとはとても言えません。森本議員は「コロナ禍で苦しんでいる子どもたちや市民の暮らしを最優先にする予算に組み替えるべき」と追及しました。

答弁ダイジェスト

今西副市長：三宮再整備をはじめとする基盤整備にも国の支援をいただきながら予算を計上した。

森本議員：市役所庁舎の建て替えに国の支援はあるのか。市長は、街灯を増やす明るいまちづくりや、三宮再整備は未来の礎と述べていた。三宮再整備と子どもや市民の暮らしはどちらが大切か。

今西副市長：(庁舎に)国の支援はないが、2号館は民間活力を活用して効果的で経済効果も見込まれるビルにしたい。最優先でコロナ、そして子どもたちのためにも全力をつぎ込む。

森本議員：コロナが最優先と言うなら庁舎の建て替えをストップさせて、PCR検査や市民の暮らしのために予算を使うべきだ。

こども医療費無料化

未来の神戸担う子どもたちのために 市長公約実現せよ

久元市長は、こどもの医療費完全無料化について「過剰受診やコンビニ受診を誘発するとの指摘もあり、多忙を極める医療従事者がさらに疲弊されることにつながりかねない」と述べています。森本議員は、未来を担う子どもたちのために、今こそ8年前の市長公約であるこども医療費無料化を実現すべきと求めました。

い」と述べています。森本議員は、未来を担う子どもたちのために、今こそ8年前の市長公約であるこども医療費無料化を実現すべきと求めました。

答弁ダイジェスト

森本議員：こども初期救急センターの患者数は増えるどころか減っている。過剰受診は広がっていない。

久元市長：今後も続けるために最低限の負担をしていたく。

森本議員：お金の使い方が問題だ。震災以来借金を理由に大幅な職員削減や福祉を犠

牲にしてきた。今は「震災は終わった」という認識で三宮再開発などの大型開発に湯水のようなお金をつぎ込み、さらに借金を増やそうとしている。将来を担う子どもたちのために、借金を残すのではなく、公約であるこどもの医療費無料化や、少人数学級、温かい中学校給食など、子どもたちが今求めていることを実現すべきだ。

苦しむ市内事業者追い込む姿勢正し、 今こそ直接支援を

神戸市定例市議会本会議が3月19日にひらかれました。林まさひと議員が登壇し、神戸市一般会計補正予算案のうち、新型コロナウイルス感染症対策について議案質疑をおこないました。

質疑項目

1. 新型コロナウイルス感染症対策について

- ① 市内事業者への支援について
- ② 医療機関への支援について

新型コロナウイルス感染拡大にともなう二度目の緊急事態宣言発令による営業時間短縮の要請と不要不急の移動自粛で、市内の事業者はたいへんな苦境に立たされています。神戸市では新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金

として約15億円の補正予算が計上されていますが、飲食店などが対象で、多くの事業者に支援が当たりません。林議員は、今困っている事業者へ行き渡るように支援対象の拡大を求めました。

答弁ダイジェスト

林議員：市長も「切れ目ない支援を」と言っているが、

実際に協力金の対象から外れる業種が多く、どの支援も50%減という線引きで高い壁に

阻まれている。

今西副市長：国でも特に困っている事業者への支援策ということで一定の線引きがされている。無利子無担保の融資や様々な支援策を活用してコロナを乗り切っていただきたい。

林議員：国は融資だけでは救えないと判断し、直接支援を決断した。「これ以上借りれない」「返せない」と苦しんでいる事業者の声を聞いている。市内の中小業者を借金

漬けにして追い込むような姿勢でよいのか。

今西副市長：資金繰りは事業が継続する上で大切な観点だ。ウィズコロナ・ポストコロナをにらんだ業態に変える支援策も措置している。

林議員：50年以上も神戸の地場産業を誇りをもって支えてきた方に業種転換しなさいというのか。今コロナで苦しんでいる中小業者に区別なく直接支援の手を差し伸べるべきだ。

あってはならない!! ボーナスカット 市独自で医療支援拡大を

神戸市は、医療の最前線で奮闘する医療従事者の活動を支援するための寄付金を募集する『こうべ医療者応援ファンド』へ5000万円を拠出する補正予算を提示しました。この支援の対象はコロナ患者を受け入れた医療機関に限られ

ています。林議員は「ボーナスカットされ、厳しい状況にあるのはコロナ患者を受け入れた医療機関だけではなく、受け入れていない医療機関も同様だ」と強く指摘し、市の独自支援の拡大を求めました。

答弁ダイジェスト

恩田副市長：(ファンドで)

少しでも医療従事者の応援に繋がればと考えている。まず

は国の責任で財政支援をおこなうよう要望していきたい。

林議員：コロナ患者を受け入れていない医療機関でも感染防止策での空床確保や人件費で減収となる。市長は「ボーナスがカットされているのは心が痛む」とツイートしている。今回の補正予算では、コロナ患者を受け入れていない病院の医療従事者には支援が届かない。苦しみがあったなら同じように支援すべきだ。

恩田副市長：感染防止整備

は国の補助金が出ている。経営状況が苦しいのは承知しているが、補填に充てていただければと思う。

林議員：神戸市の独自支援も拡大すべきだ。コロナウイルスはどこにでも影響を与えている。このファンドの対象にならない、コロナ患者を受け入れていない医療機関の医療従事者も大変な苦勞をしている。ぜひとも支援の拡大をしていただきたい。

林議員が

議案質疑

